

ケースカンファレンスにおけるスーパーバイザー機能に関する研究

ーグループの活性化に着目してー

○ 中部学院大学 氏名 小松尾 京子 (会員番号 4895)

キーワード：スーパーバイザー機能 ケースカンファレンス グループの活性化

1. 研究目的

ソーシャルワーカーをはじめとする対人援助の専門職（以下、「ワーカー」）が対応する生活課題は、近年ますます多様化・深刻化の様相を呈し、高度な実践力が求められるようになってきている。

ケースカンファレンス（case conference 以下「カンファレンス」）は、ソーシャルワークの価値に基づいた援助の展開や、援助の質の向上に有用な方法として実践が積み重ねられてきた。カンファレンスの場合は、グループであることの効果や有用性が認められるものの、その一方で、メンバー間の過度の競争心や関係の悪化など、グループであることの弊害が生じる可能性がある。そのため、効果的に展開するには、グループの取り扱いに関する知識が求められることは従来から指摘されていた。しかしながら、その具体的な内容については十分に議論されず、重要性の示唆にとどまっている。

そこで、ケースカンファレンスの目的であるクライアントへの援助の向上とワーカーの成長（岩間 2005）を達成するために、グループの活性化に着目し、カンファレンスにおけるスーパーバイザー機能（以下、「バイザー機能」）の具体的な内容を明らかにすることを目的とする。

2. 研究の視点および方法

カンファレンスは、取り扱う事例や目的、構成メンバーが個々に異なることから、その展開過程は多様で、きわめて個別性が高いといえる。個別性に対応しつつ効果的に展開するには、グループの取り扱いが欠かせない。そこで本研究では、スーパーバイザー機能（以下、「バイザー機能」）を「ケースカンファレンスの目的を達成するために、グループダイナミクスを活用して、メンバーをサポートしつつ働きかけていく機能」と位置づけ、グループの活性化に着目して、インタビュー調査を実施した。

調査の対象は、経験年数10年以上で、カンファレンスにおいてスーパーバイザー（以下、「バイザー」）やファシリテーター役を担っている4名（男性2名、女性2名）の社会福祉士・主任介護支援専門員である。2018年2月～3月にかけて、半構造化面接による個別インタビューを実施した。分析方法は、質的データ分析法（佐藤 2008）を参考にした。分析の焦点は、①バイザー機能の実践内容と役割意識、②グループの取り扱いへの配慮や工夫、③グループを取り扱うために必要な要素の3点である。

インタビューデータは、すべて逐語録にしたうえで、その内容を読み込み、グループの

取り扱いや活性化を志向した発話内容についてコーディングを行った。それらを比較検討しながら、グループ化しカテゴリ表を作成した。この作業は繰り返し行った。

3. 倫理的配慮

倫理的配慮として、調査対象者に研究の目的、方法、意義、匿名性の確保、結果の公表の方法等について説明し、研究協力への同意を得た。データに関しては、学会の研究倫理に則り、個人が特定できないよう保管しプライバシーの保護には十分配慮している。なお、本研究は大阪市立大学大学院生活科学研究科研究倫理委員会（承認番号：17-44）の承認を得ている。

4. 研究結果

インタビューによって得られたデータのうち、分析対象となった発話内容は405である。これらを詳細に検討した結果、バイザー機能として、「個々のメンバーとの関係づくり」、「議論の活性化」、「議論の方向づけ」、「サポータティブなグループづくり」、「事例提供者への働きかけ」の5つのカテゴリを生成した。

「個々のメンバーとの関係づくり」は、サポータティブなかかわりがベースにあり、そのかかわりは、個々のメンバー、グループ、事例提供者の三方向に向けられていた。「議論の活性化」では、ツールの活用による視覚化やサブグループの活用など、活性化に向けた環境整備と、メンバーの質問力向上に向けて、メンバーの力量のアセスメントやの気づきにあわせた対応に類型化できた。「議論の方向づけ」では、カンファレンスの目的を確認したうえで論点を整理していた。議論のなかで方向がずれた際は、議論の戻る場所として論点を示しつつ、確認しながら、軌道修正を行っていた。「サポータティブなグループづくり」では、安心して議論できる場とするためのルールを示し、その遵守をメンバーに求めている。ルールを遵守することが、事例提供者を守り、メンバーを守ることに繋がっていた。「事例提供者への働きかけ」では、援助者としての気づきをアセスメントしながら、カンファレンスの準備段階から終了後に至るまで、一貫して事例提供者の困りごとに寄り添い、事例提供者を支えていた。

5. 考察

「個々のメンバーとの関係づくり」「議論の活性化」「議論の方向づけ」のカテゴリは、カンファレンスの展開過程と連動していた。事例提供者の反応は、議論の活性化と方向づけに影響を及ぼし、滋養的時空としてカンファレンスの場を位置づけることは、カンファレンスの成否を左右する要素となりうることから、「サポータティブなグループづくり」と「事例提供者への働きかけ」はグループの活性化の基盤としての機能と位置づけられる。具体的なスーパーバイザー機能の内容の検証は今後の課題である。